

広島県調査項目(案)

基本属性			県内市町から選択 (広島市のみ区単位)						
Q1	SA	居住地							
Q2	SA	性別	1 男	2 女	3 回答したくない				
Q3-1	SA	年齢	1 20歳未満	2 20～24歳	3 25～29歳	4 30～34歳	5 35～39歳	6 40～44歳	7 45～49歳
			8 50歳以上						
Q3-2	SA	配偶者の年齢	1 20歳未満	2 20～24歳	3 25～29歳	4 30～34歳	5 35～39歳	6 40～44歳	7 45～49歳
			8 50歳以上						
Q4-1	SA	就業形態	1 正規の職員	2 パート・アルバイト	3 派遣・嘱託・契約社員	4 自営業主・家族従事者・内職	5 無職・家事	6 学生	
Q4-2	SA	配偶者の就業形態	1 正規の職員	2 パート・アルバイト	3 派遣・嘱託・契約社員	4 自営業主・家族従事者・内職	5 無職・家事	6 学生	
Q5-1	SA	年収見込	1 200万円未満	2 200万円台	3 300万円台	4 400万円台	5 500万円台	6 600万円台	7 700万円～1000万円
			8 1000万円以上	9 わからない					
Q5-2	SA	配偶者の年収見込み	1 200万円未満	2 200万円台	3 300万円台	4 400万円台	5 500万円台	6 600万円台	7 700万円～1000万円
			8 1000万円以上	9 わからない(把握していない)					
Q6-1	SA	今現在の子ども数	0 0人	1 1人	2 2人	3 3人	4 4人以上		
Q6-2	SA	子供の年齢・状況 ※子供が1人と回答した者のみ表示	0 3歳未満	1 3～6歳(未就学)	2 小学生	3 中学生	4 高校生以上		
	SA	長子の年齢・状況 ※子供が2人以上と回答した者のみ表示	0 3歳未満	1 3～6歳(未就学)	2 小学生	3 中学生	4 高校生以上		
	SA	末子の年齢・状況 ※子供が2人以上と回答した者のみ表示	0 3歳未満	1 3～6歳(未就学)	2 小学生	3 中学生	4 高校生以上		
Q7		世帯構成	1 核家族	2 3世代同居	3 その他				

本調査

設問1 希望する子供の数と実際(予定を含む)の子供の数のギャップとその理由

(予定の子供の数)

Q1	SA	予定しているこどもの数は何人ですか？(現在のこどもの数を含む)	0 0人	1 1人	2 2人	3 3人	4 4人以上	5 わからない、特に予定はない
----	----	---------------------------------	------	------	------	------	--------	-----------------

(希望の子供の数)

Q2	SA	あなた又はパートナーが子供を産み、育てる上で、制約となっている問題が解決できた場合に、本当に持ちたいと希望する子供の数は何人ですか？	0 0人	1 1人	2 2人	3 3人	4 4人以上	5 わからない、特に理想はない
----	----	--	------	------	------	------	--------	-----------------

(希望と予定のギャップの理由)←Q1<Q2の人にお聞きます。

Q3 SA 予定の子どもの数が、希望する子どもの数より少ないのはなぜですか。その理由として、当てはまる項目を選び、あなたの意思決定に影響するその項目の重要度(※)について、点数配分でお答えください。(※重要度の合計が20点となるようにお答えください。【例】理由①:10点、理由②:5点、理由③:5点など)

- | | | | |
|---|-----|--|--------------|
| ① | 経済 | 出産や子育て・教育にお金がかかりすぎるから
(将来的な負担に対する不安) | 点数を入力(0~20点) |
| ② | 経済 | 出産・子育てする経済的余裕がない
(現在の収入や資産が不足) | 〃 |
| ③ | 経済 | 不妊治療にお金がかかりすぎるから | 〃 |
| ④ | 経済 | 子供1人に充分なお金をかけたいから | 〃 |
| ⑤ | 身体 | 自分やパートナーが高齢であるから | 〃 |
| ⑥ | 身体 | 欲しいができないから | 〃 |
| ⑦ | 身体 | 不妊治療に対する身体的・時間的な負担が大きいから | 〃 |
| ⑧ | 身体 | 子供を産み、育てることに対して、自分やパートナーの健康面での不安があるから | 〃 |
| ⑨ | 身体 | 現在の生活で手いっぱいだから
(出産や子育てする時間的余裕がない) | 〃 |
| ⑩ | 心理 | 子供が増えることによる精神的負担が重たいから | 〃 |
| ⑪ | 心理 | つわりや出産時の痛み、体調不良を経験したくないから | 〃 |
| ⑫ | 心理 | 子育てに喜びや楽しさを感じないから | 〃 |
| ⑬ | 心理 | これ以上自分の時間や余裕がなくなるのは嫌だから | 〃 |
| ⑭ | 家族 | パートナーが子供をほしがらないから | 〃 |
| ⑮ | 家族 | パートナーとの関係が良くないから
(パートナーの子供を欲しいと思わない、性交渉を行いたくないなど) | 〃 |
| ⑯ | 家族 | パートナーの家事・育児への協力が十分に得られないから | 〃 |
| ⑰ | 家族 | 親や祖父母、親戚からの協力が十分に得られないから | 〃 |
| ⑱ | 環境 | 自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから | 〃 |
| ⑲ | 環境 | 住宅が狭いから | 〃 |
| ⑳ | 環境 | 住んでいる地域の医療機関が十分でないから
(周産期、小児医療等) | 〃 |
| ㉑ | 環境 | 住んでいる地域の保育環境が十分でないから
(保育所等の定員、保育の質) | 〃 |
| ㉒ | 環境 | 子どもがのびのび育つ環境ではないから
(子連れで出かけられる遊び場がないなど) | 〃 |
| ㉓ | その他 | (自由記述) | 〃 |

(希望を実現できた理由)←Q1=Q2の人にお聞きます(0人は除く)。

Q4	SA	あなたの希望どおりの子どもの数を持つことができたのはなぜですか。 その理由として、当てはまる項目を選び、あなたの意思決定に影響するその項目の重要度(※)について、点数配分でお答えください。 (※重要度の合計が20点となるようにお答えください。【例】理由①:10点、理由②:5点、理由③:5点など)	
①	経済	出産・子育て・教育に係る経済的な不安(将来への不安)は特に抱かなかったから	点数を入力(0~20点)
②	経済	出産や子育てのための経済的余裕があったから	〃
③	経済	不妊治療に対する行政の支援が活用できたから	〃
④	経済	出産や子育て・教育に関する行政の経済的支援が活用できたから	〃
⑤	身体	比較的若い年代で結婚し、妊娠・子育てのための十分な時間があったから	〃
⑥	身体	不妊に悩むことがなかったから	〃
⑦	身体	健康面での不安がなかったから	〃
⑧	身体	つわりや出産時の痛み、体調不良をそれほど負担に感じなかったから	〃
⑨	身体	不妊治療によって授かることができたから	〃
⑩	心理	育児に対する精神的負担感よりも、得られる喜びの方が大きいと感じたから	〃
⑪	心理	たいていのことは、乗り越えられるという安心感があったから	〃
⑫	心理	家族や友人の精神的なサポートがあったから	〃
⑬	心理	地域の保健師や助産師のサポートがあったから	〃
⑭	家族	パートナーが子供をほしがったから	〃
⑮	家族	パートナーとの子供がほしいと思ったから	〃
⑯	家族	パートナーが家事・育児を分担してくれたから	〃
⑰	家族	親や祖父母、親戚からの協力が十分に得られたから	〃
⑱	環境	自分の仕事(勤めや家業)に差し支えがなかったから	〃
⑲	環境	勤め先からの住居手当や行政からの支援、公営住宅などの利用ができたから	〃
⑳	環境	住んでいる地域の医療機関が十分であったから(周産期、小児医療等)	〃
㉑	環境	住んでいる地域の保育環境が十分であったから(保育所等の定員、保育の質)	〃
㉒	環境	子どもがのびのび育つ環境だったから	〃
㉓	その他	(自由記述)	〃

(希望の子ども数が多い理由)←Q2が3人以上の人にお聞きします。

Q5 SA あなたが3人以上の子どもを持つことを希望する理由やきっかけは何ですか。
その理由として、当てはまる項目を選び、あなたの意思決定に影響するその項目の重要度(※)について、点数配分でお答えください。
(※重要度の合計が20点となるようにお答えください。【例】理由①:10点、理由②:5点、理由③:5点など)

- | | | 点数を入力(0~20点) |
|---|--|--------------|
| ① | 自分がきょうだいの多い家庭で育ったから | |
| ② | 自分がきょうだいが少ない家庭で育ったから | 〃 |
| ③ | 自分の周りに子供が多い人がいたから影響を受けた | 〃 |
| ④ | 比較的若い年代で子供と触れ合う機会があり、自然と子供を持ちたいと思うようになった | 〃 |
| ⑤ | きょうだいが多い方が子供にとって良い環境だと思うから | 〃 |
| ⑥ | 子供を持つことが自分やパートナーにとって人生の喜びや幸せだから | 〃 |
| ⑦ | 子供がたくさんいる方が家庭が明るくなるから | 〃 |
| ⑧ | パートナーが子供をたくさん欲しいと希望しているから | 〃 |
| ⑨ | 自分やパートナーの親が孫をたくさん欲しいと希望しているから | 〃 |
| ⑩ | 自分の子孫をたくさん残したいから | 〃 |
| ⑪ | 子供をたくさん持つのが自然だと思っている | 〃 |
| ⑫ | その他(自由記述) | |

設問2 出産や子育てに伴う身体的負担の状況

Q1-1	SA	平日、あなたは家事・育児に、1日当たりどの程度従事していますか(平日の平均時間)	()時間()分									
Q1-2	SA	休日、あなたは家事・育児に、1日当たりどの程度従事していますか(休日の平均時間)	()時間()分									
Q1-3	SA	それに対して、あなた自身はどう評価していますか	1 頑張り過ぎて疲弊している	2 よく頑張っている	3 どちらともいえない	4 もう少し頑張るべき	5 全く不十分だ					
Q1-4	SA	Q1-3で「4もう少し頑張るべき」「5全く不十分だ」と答えた方にお聞きします。そう評価した理由は何ですか？(複数選択)	1 自身の家事・育児のスキルが不十分で時間がかかる	2 パートナーが自分に家事・育児を任せられない	3 自身の仕事が忙しく、家に帰る時間が遅い	4 家事・育児をしたいと思わない	5 子供が自分になつからないから	6 家族と離れて暮らしているから	7 その他(自由記述)			
Q2-1	SA	平日、あなたのパートナーは家事・育児に、1日当たりどの程度従事していますか(平日の平均時間)	()時間()分									
Q2-2	SA	休日、あなたのパートナーは家事・育児に、1日当たりどの程度従事していますか(休日の平均時間)	()時間()分									
Q2-3	SA	それに対して、あなたはどうか評価していますか	1 もう少し力を抜いてほしい	2 よく頑張っている	3 どちらともいえない	4 もう少し頑張るべき	5 全く不十分だ					
Q2-4	SA	Q2-3で「4もう少し頑張るべき」「5全く不十分だ」と答えた方にお聞きします。そう評価した理由は何ですか？(複数選択)	1 パートナーの家事・育児のスキルが不十分	2 自分がして欲しいと思っている家事や育児をしてくれない	3 パートナーの仕事が忙しく、家に帰る時間が遅い	4 家事・育児を自分事だと思っていない	5 子供がパートナーになつからないから	6 パートナーが離れて暮らしているから	7 その他(自由記述)			
Q3	MA	パートナー以外で、家事や育児に協力してくれる人はいますか？(複数選択)	1 自分の親	2 パートナーの親	3 親以外の親戚	4 友人・知人	5 地域や民間のサービス	6 特にいない				

設問3 経済的支援制度に対する認知度や希望

以下の設問にある制度の概要は次表のとおりです。この制度の概要を踏まえた上で、設問にお答えください。

経済的支援制度	制度の概要	制度の開始時期等
【不妊検査・治療の助成】	①夫婦で不妊検査を受けた場合、5万円を助成(年齢制限あり、妻が35歳未満) ②保険適用外の先進医療と保険適用の生殖補助医療を併用した人に対し、治療1回につき5万円を、6回まで助成(年齢制限あり、妻が43歳未満) ③保険適用外の先進医療等の活用により、保険適用される生殖補助医療が全額自己負担となった人に対し、治療1回につき上限30万円を、6回まで助成(年齢制限あり、妻が43歳未満)	①平成27年度から ②令和4年度から ③令和5年度から
【妊婦健診・産婦健診の公費負担】	母子手帳交付時に、市町から妊娠中の14回の妊婦健診(10万円相当)、出産後2回の産婦健診(1万円相当)の補助券をもらい、医療機関で無料(追加の検査等を実施する場合は自己負担あり)で健診が受けられる	
【出産・子育て応援交付金】	妊娠届出時に5万円、出生時に5万円の現金またはクーポンが市町から支給される	令和4年度から開始
【出産・育児一時金】	出産費用を賄えるよう、出産時に各健康保険組合等から50万円が支給される	令和5年4月に42万円から50万円に引き上げ
【乳幼児医療費】	小学校就学前までのこどもの医療費のうち、一定の自己負担(通院の場合、1医療機関当たり500円×月4日)を超える費用は市町から支給される(市町によっては、小中高校生まで対象年齢を引き上げ)	昭和48年度から開始
【幼児教育・保育の無償化】	3歳～5歳の子供の幼児教育・保育の利用料(平均37,000円/月)は、所得に関わらず無料になっている ただし、保育料が上限金額を上回る場合は保護者負担あり	令和元年10月から
【0～2歳児の保育料】	0歳～2歳の子供の保育の利用料(平均42,000円/月)は、住民税非課税世帯のみ無料	
【児童手当】	中学校卒業まで、子供一人当たり、月額1万円～1万5千円程度が市町から支給される(所得制限あり、年収960万円未満)	現在、所得制限の撤廃等の制度拡充の検討が進んでいる
【高校の修学支援】	公立高校の授業料等の負担(11万8,800円/年)は無料になっている(所得制限あり、年収910万円未満) 私立高校の場合は、上限39万6,000円/年の修学支援金が支給される(所得制限あり、年収590万円未満)	平成22年度に公立高校の授業料の無料化開始 令和2年4月から私立にも拡充
【大学(高等教育)の修学支援】	大学等の入学金・授業料について、住民税非課税世帯の学生は国公立は全額免除(入学金約28万円、授業料約54万円/年)、私立大学は相当額の支援、準ずる世帯の学生は2/3又は1/3の支援が受けられる また、必要な学生生活費を賄えるよう年額21万円～80万円の給付型奨学金(返済しなくて良い奨学金)を受けられる(所得制限あり、年収380万円未満)	令和2年4月から開始

(経済的支援制度に対する認知度)

Q1	SA	妊娠・出産・子育てに関する経済的な負担を軽減するため、様々な支援制度があります。以下の支援について知っていますか？					
Q1-1	SA	【不妊検査・治療の助成】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けたと思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった
Q1-2	SA	【妊婦健診・産婦健診の公費負担】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けていると思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった
Q1-3	SA	【出産・子育て応援交付金】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けていると思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった
Q1-4	SA	【出産・育児一時金】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けていると思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった
Q1-5	SA	【乳幼児医療費】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けていると思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった
Q1-6	SA	【幼児教育・保育の無償化】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けていると思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった
Q1-7	SA	【0～2歳児の保育料】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けていると思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった
Q1-8	SA	【児童手当】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けていると思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった
Q1-9	SA	【高校の修学支援】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けていると思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった
Q1-10	SA	【大学(高等教育)の修学支援】	1 知っており、実際に支援を受けたことがある	2 知っており、今後支援を受けたいと考えている	3 支援制度があることは知っているが、金額等の詳細は知らなかった	4 おそらく過去に支援を受けていると思うが、あまり記憶にない	5 支援制度があることを知らなかった

(経済的支援制度に対する評価)

Q2	SA	妊娠・出産・子育てに関する次の経済的支援制度は、子供を産み、育てることにどれだけ寄与していると思いますか？ 各経済的支援制度に対する評価をお聞かせください。					
Q2-1	SA	【不妊検査・治療の助成】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない
Q2-2	SA	【妊婦健診・産婦健診の公費負担】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない
Q2-3	SA	【出産・子育て応援交付金】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない
Q2-4	SA	【出産・育児一時金】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない
Q2-5	SA	【乳幼児医療費】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない
Q2-6	SA	【幼児教育・保育の無償化】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない
Q2-7	SA	【0～2歳児の保育料】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない
Q2-8	SA	【児童手当】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない
Q2-9	SA	【高校の修学支援】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない
Q2-10	SA	【大学(高等教育)の修学支援】	非常に有益であり、 1 今後も不可欠な支援制度だと思ふ	比較的有益であり、 2 今後も必要な支援だと思ふ	比較的有益ではあるが、 3 今後も必要かどうかはわからない	4 特に支援がなくても構わない	5 自分は支援の対象外なので、特に意見はない

Q3	SA	あなたは、所得制限のある以下の経済的支援制度について、どこまで公費(税金等)で負担すべきだと思いますか？					
Q3-1	SA	【0～2歳児の保育料】	特に支援は必要な 1 い(自己負担が良い と思う)	2 現在の制度で充分だ と思う	3 所得制限はあっても 良いが、もっと幅広い 世帯に支援を拡充す べき	4 所得に関係なく、 全ての子育て家庭 を支援すべき	5 わからない
Q3-2	SA	【児童手当】	特に支援は必要な 1 い(自己負担が良い と思う)	2 現在の制度で充分だ と思う	3 所得制限はあっても 良いが、もっと幅広い 世帯に支援を拡充す べき	4 所得に関係なく、 全ての子育て家庭 を支援すべき	5 わからない
Q3-3	SA	【高校の修学支援】	特に支援は必要な 1 い(自己負担が良い と思う)	2 現在の制度で充分だ と思う	3 所得制限はあっても 良いが、もっと幅広い 世帯に支援を拡充す べき	4 所得に関係なく、 全ての子育て家庭 を支援すべき	5 わからない
Q3-4	SA	【大学(高等教育)の修学支援】	特に支援は必要な 1 い(自己負担が良い と思う)	2 現在の制度で充分だ と思う	3 所得制限はあっても 良いが、もっと幅広い 世帯に支援を拡充す べき	4 所得に関係なく、 全ての子育て家庭 を支援すべき	5 わからない

(経済的負担感の詳細)←設問1のQ3で①②③④を選択した人にお聞きします

Q4	SA	あなたが希望する数の子供を産み、育てることをあきらめた理由として、次のうちの費用に対する負担感の影響が大きいですか？ その理由として、当てはまる項目を選び、あなたの意思決定に影響するその項目の重要度(※)について、点数配分でお答えください。 (※重要度の合計が20点となるようにお答えください。【例】理由①:10点、理由②:5点、理由③:5点など)	
			点数を入力(0～20点)
①		不妊治療にかかる費用	
②		妊娠・出産にかかる費用	〃
③		子供の医療費	〃
④		0歳から2歳の保育料	〃
⑤		3歳から5歳の保育・幼児教育に必要な費用 (給食費・教材費等)	〃
⑥		小学校修学に必要な費用 (給食費・教材費・制服代・修学旅行代等)	〃
⑦		中学校修学に必要な費用 (給食費・教材費・制服代・修学旅行代等)	〃
⑧		高校修学に必要な費用 (交通費・教材費・制服代・修学旅行代等)	〃
⑨		高校修学に必要な費用 (所得制限を超える場合の授業料等)	〃
⑩		大学・大学院修学に必要な費用 (入学金・授業料・仕送り等)	〃
⑪		食費・衣服等の生活必需品の費用	〃
⑫		子どもの小遣い、家族で過ごすための娯楽費	〃
⑬		塾や習い事の費用	〃
⑭		その他	〃

(経済的負担の軽減策)

Q5 SA 行政が行う経済的負担の軽減策として、どちらが重要だと思いますか。
当てはまるものを一つ選んでください

1 子育て家庭の所得を増やす 2 子育て・教育に係る費用を公費で負担する 3 1と2のどちらも重要だと思う 4 どちらも必要ない

(経済的負担の軽減策)←Q5で1又は3と答えた方にお聞きします

Q6 子育て家庭の所得を増やすために、どういった支援が必要だと思いますか。
(複数回答)

1 若者が正規雇用になれるよう支援すること 2 子供を出産しても夫婦が共に働き続けられる制度を整えること 3 子供を出産後に再就職できるよう支援すること 4 安心して子供を預けられる保育施設を充実させること 5 夫婦が共に働きながら子育てしやすい職場風土を作ること 6 その他

(経済的負担の軽減策)←Q5で2又は3と答えた方にお聞きします

Q7 子育て・教育に係る費用を、現在の支援制度に加えて、さらに公費で軽減する場合、どの段階の費用負担が少子化対策に最も効果的だと思いますか。
当てはまるものを一つだけ選んでください。

1 不妊治療に要する費用 2 妊娠・出産に要する費用 3 保育料 4 こどもの医療費 5 小学校・中学校の費用 6 高校修学に必要な費用 7 大学修学に必要な費用

設問3 子育てを支援する行政サービスの認知度や希望について

以下の設問にある制度の概要は次表のとおりです。この制度の概要を踏まえた上で、設問にお答えください。

子育てを支援する行政サービス	サービスの概要
市町の母子保健やネウボラ(子育て支援包括支援センター)の保健師などによる支援	母子手帳交付時からの定期的な面談や子供の健診などの機会を通して、子育て家庭の状況を把握し、各種支援サービスを提供しています 広島県では、市町が面談回数を増やしたり、サービスを充実させるための支援を行っています
産前・産後サポート事業	産前・産後のサポートを必要とする家庭に、市町から委託を受けた助産師などが訪問し、家事や育児の支援を行います 集団参加型のパパママ教室の開催などを行っている市町もあります 広島県では、市町が設定している利用料の半額を負担し、より安価にサポートを受けられるよう支援しています
産後ケア事業	出産後に心身のケアを必要とする産婦に対し、市町から委託を受けた助産所や産科医療機関などで、宿泊型、デーサービス型、アウトリーチ型の助産師等によるケアを提供します 広島県では、市町が設定している利用料の半額を負担し、より安価にケアを受けられるよう支援しています
子育てイクちゃんサービス	お子さん連れで店舗や施設を利用しやすいよう、授乳室を設置したり、お子さん向けのサービスなどを提供している店舗・施設を、広島県では「イクちゃんサービス店」と認証し、子育て応援ポータルサイト「イクちゃんネット」にサービス内容等を掲載しています
子育てスマイルマンション	民間事業者が分譲する子育てしやすい一定の要件を満たすマンションを、広島県では「子育てスマイルマンション」と認定し、購入される方のローンの金利の優遇措置を講じています
ファミリー・サポート・センター事業	育児の援助をしてほしい方(依頼会員)と育児の援助ができる方(提供会員)のマッチングを行い、子供の送迎や預かりなど、地域の中で助け合いながら子育てをする有償ボランティアの会員組織で、県内の多くの市町(20市町)で実施されています
地域子育て支援拠点	乳幼児及びその保護者が相互に交流を行う場所(ひろば)を提供し、子育てについての相談や地域の子育て情報の提供、子育てに関する教室等の開催を行う地域の拠点施設で、現在広島県内では170施設が運営されています。
広島県子育てポータルサイト「イクちゃんネット」	広島県では、子育てに関する正しい知識・情報や行政の子育て支援サービス、子育て家庭が子連れで外出しやすいサービスを提供する店舗(イクちゃんサービス店)の情報やイベント情報など、子育て家庭が必要とする情報を集約し、子育てポータルサイト「イクちゃんネット」で提供しています

(子育て支援サービスの認知度)

Q1	SA	広島県では、子育て中の方をサポートするため、次のような行政サービスがあります。これらについて知っていましたか？			
Q1-1	SA	市町の母子保健やネウボラ(子育て支援包括支援センター)の保健師などによる支援	1 支援があることを知っており、実際に使ったことがある	2 支援があることは知っているが、使ったことはない	3 支援があることを知らなかった
Q1-2	SA	産前・産後サポート事業	1 支援制度(事業)があることを知っており、実際に使ったことがある	2 支援制度(事業)があることは知っているが、使ったことはない	3 支援制度(事業)があることを知らなかった
Q1-3	SA	産後ケア事業	1 支援制度(事業)があることを知っており、実際に使ったことがある	2 支援制度(事業)があることは知っているが、使ったことはない	3 支援制度(事業)があることを知らなかった
Q1-4	SA	子育てイクちゃんサービス	1 サービスがあることを知っており、実際に使ったことがある	2 サービスがあることは知っているが、使ったことはない	3 サービスがあることを知らなかった
Q1-5	SA	子育てスマイルマンション	1 支援制度(事業)があることを知っており、実際に使ったことがある	2 支援制度(事業)があることは知っているが、使ったことはない	3 支援制度(事業)があることを知らなかった
Q1-6	SA	ファミリー・サポート・センター事業	1 支援制度(事業)があることを知っており、実際に使ったことがある	2 支援制度(事業)があることは知っているが、使ったことはない	3 支援制度(事業)があることを知らなかった
Q1-7	SA	地域子育て支援拠点	1 施設があることを知っており、実際に使ったことがある	2 施設があることは知っているが、使ったことはない	3 施設があることを知らなかった
Q1-8	SA	広島県子育てポータルサイト「イクちゃんネット」	1 サイトがあることを知っており、実際に使ったことがある	2 サイトがあることは知っているが、使ったことはない	3 サイトがあることを知らなかった

(子育て支援サービスの評価)←Q1-1~1-8で1(使ったことがある)を選択した方にお聞きます

Q2	SA	次の子育て支援サービスに対する評価をお聞かせください						
Q2-1	SA	市町の母子保健やネウボラ(子育て支援包括支援センター)の保健師などによる支援	1 とても助けになり、満足している。今後も利用したい	2 概ね満足しており、今後も利用したい	3 必要な制度だとは思うが、一部改善してほしい	4 大いに不満であり、今後利用したいと思わない	5 わからない	
Q2-2	SA	産前・産後サポート事業	1 とても助けになり、満足している。今後も利用したい	2 概ね満足しており、今後も利用したい	3 必要な制度だとは思うが、一部改善してほしい	4 大いに不満であり、今後利用したいと思わない	5 わからない	
Q2-3	SA	産後ケア事業	1 とても助けになり、満足している。今後も利用したい	2 概ね満足しており、今後も利用したい	3 必要な制度だとは思うが、一部改善してほしい	4 大いに不満であり、今後利用したいと思わない	5 わからない	
Q2-4	SA	子育てイクちゃんサービス	1 とても助けになり、満足している。今後も利用したい	2 概ね満足しており、今後も利用したい	3 必要な制度だとは思うが、一部改善してほしい	4 大いに不満であり、今後利用したいと思わない	5 わからない	
Q2-5	SA	子育てスマイルマンション	1 とても助けになり、満足している。今後も利用したい	2 概ね満足しており、今後も利用したい	3 必要な制度だとは思うが、一部改善してほしい	4 大いに不満であり、今後利用したいと思わない	5 わからない	
Q2-6	SA	ファミリー・サポート・センター事業	1 とても助けになり、満足している。今後も利用したい	2 概ね満足しており、今後も利用したい	3 必要な制度だとは思うが、一部改善してほしい	4 大いに不満であり、今後利用したいと思わない	5 わからない	
Q2-7	SA	地域子育て支援拠点	1 とても助けになり、満足している。今後も利用したい	2 概ね満足しており、今後も利用したい	3 必要な制度だとは思うが、一部改善してほしい	4 大いに不満であり、今後利用したいと思わない	5 わからない	
Q2-8	SA	広島県子育てポータルサイト「イクちゃんネット」	1 とても助けになり、満足している。今後も利用したい	2 概ね満足しており、今後も利用したい	3 必要な制度だとは思うが、一部改善してほしい	4 大いに不満であり、今後利用したいと思わない	5 わからない	

(産後ケア事業)←Q1-3で1又は2(制度を知っている)と答えた方にお聞きます

Q3-1		現在の産後ケア事業は、心身のケアが必要と市町が判断した方が対象であり、利用を希望しても市町が定める要件に該当しなければ利用できない場合があります。このことについて、どう思いますか。	1 利用者は、現在のよう に市町がケアが必要 と判断する人だけに 限定すべき	2 希望する人は誰でも 利用できるようにすべ き	3 わからない	
Q3-2		産後ケア事業の利用には、市町が設定している利用者負担があり、現在県ではその利用者負担の半額を助成しています。このことについて、どう思いますか。	1 特に利用者負担の 軽減は必要ない	2 利用しやすいよう、利 用者負担の半額助成 を今後も続けるべき	3 もっと利用しやすい よう、利用者負担を なくすべき	4 わからない

(市町の独自サービス)

Q4-1 Q2の子育て支援サービス以外のお住まいの市町の独自サービスで、子育て支援策として大いに評価しているサービスはありますか？ 1 ある 2 特にない 3 わからない

Q4-2 Q4-1で1(ある)と答えた方は、そのサービスの名称をお書きください(自由記述)

(民間の子育て支援サービス)

Q5-1 次の民間のサービスのうち、家事や育児の負担軽減のために利用したことのあるサービスを選択してください(複数選択) 1 民間の家事支援サービス 2 民間のベビーシッター 3 保育施設等の一時預かり 4 食事・食材の宅配サービス 5 その他(自由記述)

Q5-2 次の民間のサービスのうち、利用料のサポートがあれば、家事や育児の負担を軽減するために使ってみたいサービスはありますか？(複数選択) 1 民間の家事支援サービス 2 民間のベビーシッター 3 保育施設等の一時預かり 4 食事・食材の宅配サービス 5 その他(自由記述)

(子育てを応援する社会風土)

Q6-1 SA 広島県では、社会全体で子どもを産み・育てている方を応援する風土を醸成したいと取り組んでいます。あなたは、子どもを産み・育てることが応援されていると感じますか？ 1 とても応援されていると感じる 2 概ね応援されていると感じるが、時々そうでないと感じることもある 3 どちらともいえない 4 応援されていないと感じることの方が多い 5 全く応援されていないと感じる

Q6-2 SA あなたが、子どもを産み・育てることが応援されていると感じるのは、どういった場合ですか？(複数回答) 1 家族の理解・サポートを受けたとき 2 親や親戚の理解・サポートを受けたとき 3 職場の理解・サポートを受けたとき 4 行政のサポートを受けたとき 5 友人・知人の理解・サポートを受けたとき 6 地域や外出先の施設でサポート(子育て向けのサービス含む)を受けたとき

Q6-3 SA あなたが、子どもを産み・育てることが応援されていないと感じるのは、どういった場合ですか？(複数回答) 1 家族の理解・サポートが得られないとき 2 親や親戚の理解・サポートが得られないとき 3 職場の理解・サポートが得られないとき 4 行政のサポートが得られないとき 5 友人・知人の理解・サポートが得られないとき 6 地域や外出先の施設でサポート(子育て向けのサービス含む)が得られないとき

(今後強化すべき子育て支援策)

Q7 SA もう一人子供を産み、育てようという意思決定につながると思う子育て支援策はどれですか？最も重要だと思う項目を一つだけ選んでください 1 不妊治療への支援 2 妊娠・出産・子育ての心理的負担を軽減するサービスの充実 3 妊娠・出産・子育ての経済的負担のさらなる軽減 4 子育てにかかる身体的負担を軽減するサービスの拡充 5 夫婦が共に働きながら子育てしやすい社会や職場環境の整備 6 その他(自由記述)

(あるべき社会の姿)

Q8-1	SA	今後、あなたにとって、どういう社会になれば、もう一人子供を産み、育てようと思うことにつながるとお考えですか？ あなたの考えに最も近い考え方を1つだけ選んでください	1 夫婦が共に働きながら子育てしやすいよう、社会や職場でサポートする仕組みが充実している社会	2 夫婦が共に働きながら子育てしやすいよう、子供を産み、育てる人を、社会や職場がサポートしている社会(制度面に加え、意識も醸成されている)	3 子供を産み、育てる期間(10年程度)は、夫婦のどちらかが仕事を辞め、子育てに専念できる社会	4 ひとり親でも、平等に、子供を産み、育てられる社会	5 その他(自由記述)
Q8-2	SA	これから生まれてくる子供たちにとって、どういう社会になれば、もう一人子供を産み、育てようと思うことにつながるとお考えですか？ あなたの考えに最も近い考え方を2つだけ選んでください	1 親の所得や就業形態に関わらず、全ての子供が平等に教育や必要な支援を受けられる、格差のない社会	2 経済的に困難な家庭の子供や障害のある子供、医療的ケアを必要とする子供、異なる文化的背景を持つ子供など、多様な支援ニーズを要する子供たちが誰一人取り残されない社会	3 将来子供たちが様々な困難に遭遇しても、自らの力で乗り越えられる能力を身につけられる社会	4 子供たちが健やかに育ち、様々な夢や希望を描くことのできる社会	5 その他(自由記述)